別紙2　　令和7年度　　自己評価書　　作成日:9月22日　国分寺市立第四小学校　　校長名　大島　晃

教育目標: ○ゆたかな心で　じょうぶな子　　◎自らよく考えて　やりぬく子(重点目標)　　○みんなで　協力しあえる子

目指す学校像: 1心が響き合う学校　2学ぶ喜びがあふれる学校　3力がみなぎる学校　4互いに結ばれている学校

目指す児童・生徒像: 1よく考え伸びようとする子　2心優しく支え合おうとする子　3すすんで心身をきたえようとする子

目指す教師像: 1自らを高めるとともに、互いに高め合う教職員　2教育論をもち、児童の育ちを語れる教職員　3確かな人権意識をもつ教職員　4経営参画意識をもつ教職員　5教育公務員としての自覚をもつ教職員　6学校・地域を愛せる教職員

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標(中間)	努力指標(最終)	成果指標(中間)	成果指標(最終)	分析コメント	改善策
豊かな人間性の育成	人権教育の充実 道徳教育の充実 生活指導の充実 体験的活動、表現や鑑賞活動の充実	全教育活動を通して、いじめ防止教育の充実に努め、命を大切にし、互いの人権を尊重し合う態度を育てる。	「いじめ防止基本方針」に則り、年間を通じていじめ防止教育を徹底し、いじめの兆候を見逃さず、一人ひとりの児童理解に基づいた指導の充実を図る。	4		4		いじめ防止基本方針を全教職員で確認・共有している。児童アンケート「友だちを大切にしようとしている」では、95%の肯定的回答が得られた。	道徳や特活でのいじめ防止教育を更に充実させ、引き続き「いじめアンケート」や「こころのポスト」を活用しながらいじめの未然防止・早期発見に努める。
		基本的な生活習慣の確立を図り、自分自身で自他の安全に配慮して行動しようとする態度を育てる。	「返事・あいさつ・後始末」を合言葉に、生活指導を徹底する。「四小生活スタンダード」を改善、指導の充実を図る。	4		3		四小スタンダードに基づく基本的生活習慣の確立に向け継続的に指導を行っているが、一部児童は成果を実感できていない。振り返りや声掛けを通じて、児童の意識を向上させる工夫が必要がある。	基本的生活習慣の確立に向け、教職員が連携し、指導する。また、児童が自主的な行動を促す仕組みづくりを進めていく。
確かな学力の定着	基礎的・基本的事項の徹底 授業の充実を図るための授業改善 読書活動・プログラミング教育の推進	児童一人ひとりが「わかる、できる、つかえる」ことを実感できる授業を実践し、児童の自己肯定感を育てる。	授業のねらいと振り返りを全授業で行い、児童一人ひとりが「わかる、できる、つかえる」ことを実感できる授業を実践し、児童の自己肯定感を育てる。	3		3		個別最適な学びや自由進度学習が定着しつつあり、児童の主体性や自己肯定感が育まれている。毎時間の授業のねらいを確認はしているが、振り返りを十分に行えていないと感じている教員が多かった。	振り返りの時間を確保し、学習内容を定着させ、日常生活に役立てようとする態度を育む必要がある。個別最適な学びの実現に向け授業改善を目指していく。
		自ら学び、自ら考える活動の日常化を図る。	学習活動においてICTを積極的・効果的に活用し、情報活用の基礎および実践力、ルールや科学的な理解を図る。また、朝読書や読書旬間を設け、読書活動の習慣化を図る。	3		3		デジタルの活用が日常的に定着し、児童が主体的に操作・活用する場面が増えてきている。読書習慣の定着は個人差が見られる。	デジタルの効果的な活用により、自ら学び、考える活動の充実を更に目指していく。読書時間の確保と環境整備を通して、全児童の読書習慣の定着を図る。
たくましい心身の育成	健康教育の積極的な推進 体育活動の日常的実践を推進 安全教育の推進	食育を計画的に実施し、食への関心を高める。	給食指導や会食会を通して、食や健康に興味をもち、よりよい生活を送ろうとする態度を育てる。	3		3		給食指導や体験活動、栄養士との連携を通して、食や健康への関心が高まりつつあるが、残渣が多い傾向にある。	給食指導や体験活動を通して食への関心が高まっている。今後は適量配膳や声掛けを工夫し、残渣の減少を図り、自分自身の健康に興味をもたせていく。
		体育指導の充実	「遊ぶ、かかわる、高める」を合言葉に、自ら体力を高める児童の育成に取り組む。自他の安全に目を向け、自ら危機を回避し、行動できる資質や能力を育む。	3		4		体育や休み時間の活動を通して、体力向上と安全意識の定着が進んでいるが、暑さなどで外遊びの機会が制限される場面もあった。	活動の工夫や環境整備により、体力向上の機会を確保する。安全指導を継続し、自ら危険を回避できる力を育てる。
学校・家庭・地域の連携強化	特色ある教育活動の充実	「国分寺学」として地域に親しみ、学び、貢献する授業を推進する。	「国分寺学」として、史跡等の地域環境や地域人材を活用した、地域に親しみ、地域に学び、地域に貢献する授業を推進する。	3		3		地域人材や環境を活用した探究活動を通して、児童が国分寺への関心や愛着を深める学びを系統的に行っている。活動内容の充実を図る必要がある。	地域人材や資源を更に活用し、児童が地域に貢献したいと思えるような体験的な活動を継続・発展させていく。
	家庭・地域との連携及び協働を推進	コミュニティ・スクールとして、家庭・地域と連携して児童を育てていく。	第四中学校区コミュニティ・スクールを通して、児童の教育活動及び地域活動の充実を図る。	3		3		地域人材との連携は進んでいるが、小中連携やCSとの協働は十分に行えず、活動の広がりに課題が残った。	CSや中学校との連携を強化し、地域・家庭・学校が一体となった教育活動の充実を図る計画的な取組を進める。